

令和6年版埼玉県環境白書の刊行にあたって



本県は、利根川や荒川をはじめとした多くの河川が流れ、西部の秩父山系には海拔2,000mを超える亜高山帯地域があり、中部には、比企丘陵や武蔵野台地、大宮台地などの丘陵や台地が広く分布し、東部には広大な低地が広がるなど、変化に富んだ地形と多様な自然環境に恵まれ、それぞれの地域で長い時間をかけて多様な生態系が形成されています。

豊かな生物多様性に支えられた生態系は、持続可能な社会に不可欠であり、生態系がもたらす各種の恩恵は私たちの生活や文化を支える基盤となります。

こうしたことを踏まえ、本県では今年3月、新たな埼玉県生物多様性保全戦略（2024（令和6）～2031（令和13）年度）を策定し、自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の実現を目指すことを掲げました。

市町村、企業、NPO及び県民など多様な主体と連携・協働を図り、ネイチャーポジティブの実現に取り組んでまいります。

また、持続可能なまちづくりを目指す「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」や、温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル（脱炭素）」、生産活動や消費活動などのあらゆる段階で資源の効率的・循環的な利用を図る経済活動である「サーキュラーエコノミー（循環経済）」への移行に向けた取組などについても、引き続き積極的に推進してまいります。

この「埼玉県環境白書」は、埼玉県環境基本計画に掲げた環境の保全や創造に関する施策の進捗状況を取りまとめたものです。この白書をきっかけに、県民や事業者の皆様が環境問題に対する理解を深めていただければ幸いです。

持続可能な社会の実現には県のみならず、県民や事業者の皆様、国や市町村などが「ワンチーム」で取り組むことが不可欠です。皆様のより一層の御支援と御協力を心からお願い申し上げます。

令和6年12月

埼玉県知事 大野元裕